

地 球 温 暖 化 対 策 計 画 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	尾張精機株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市東区矢田三丁目16番85号
工場等の名称	尾張精機株式会社 本社工場
工場等の所在地	名古屋市東区矢田三丁目16番85号
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	輸送用機械器具製造業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和4年7月29日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 尾張精機株式会社 本社工場総務部総務・人事課
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-721-7131		

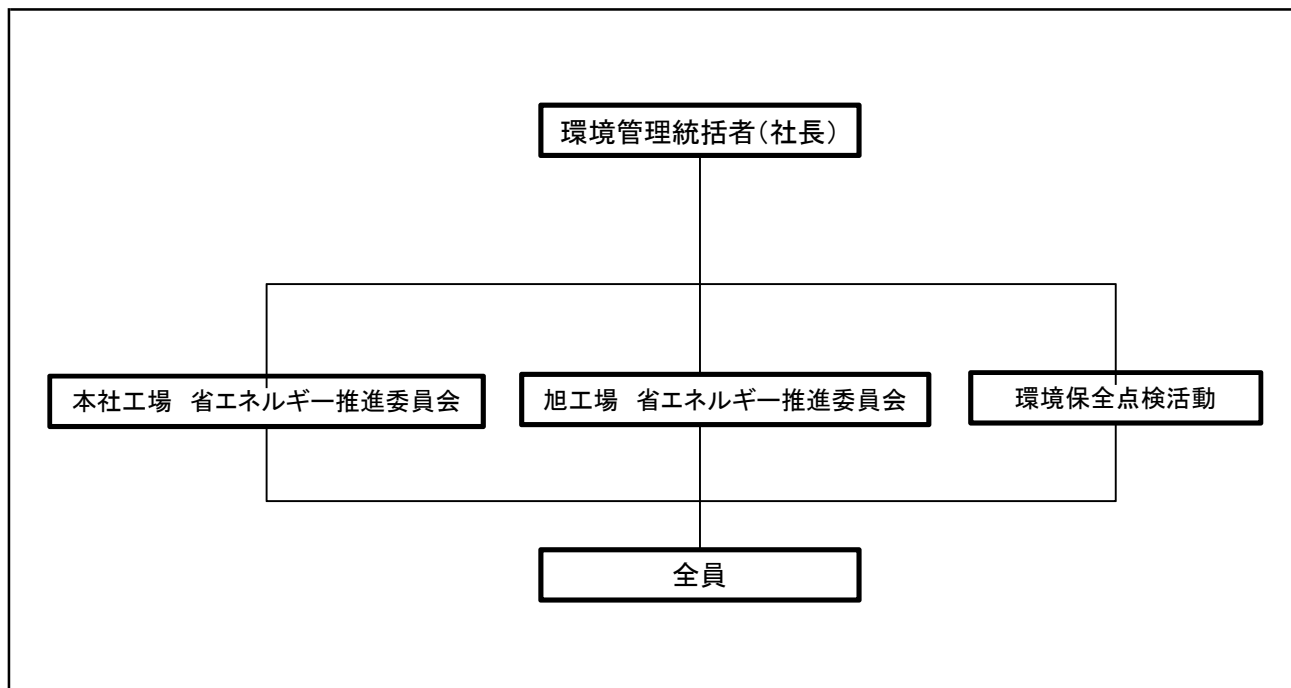
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

環境方針

1. 環境に関する法規およびその他の要求事項を守り、自らの責任において、事業活動が環境に及ぼす影響を事前に把握し、環境負荷低減の目標を定めて、その実現に努めます。
2. 環境負荷低減の目標達成を目指し、環境課題を実現する新技術の開発に努めるとともに、自主的に改善計画を策定し、継続的な取り組みを展開します。
3. 廃棄物の発生抑制 (Reduce)、再利用 (Reuse)、再資源化 (Recycle)を推進し、感染予防をはかり、エネルギーや資源の有効利用に努めます。
4. 化学物質のリスク・特性を把握し、より厳格な取扱いに努めます。
5. 全社員が環境活動方針を理解し、自ら責任を持って環境保護活動を遂行できるよう環境教育を行います。
6. この環境方針は、外部からの要求に応じて開示します。また、関係会社や地域との協力・連携を密にし、良き企業市民として環境貢献活動を推進し、社会的責任を果たしていきます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,801	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） ②を除く	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,801	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	1,801	t-CO ₂	1,747	t-CO ₂	3.0	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排出量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを 1 %/年削減し、3年間で3%削減する。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動の実践（冷暖房）	・ 冷房28℃、暖房20℃設定の徹底 ・ ノーネクタイ、ノー上着等クールビズの徹底	
省エネルギー・省資源の行動の実践（照明）	・ 使用していない部屋や休憩時間の消灯の徹底	
省エネルギー・省資源の行動の実践（OA機器）	・ パソコンの省電力モードの徹底 ・ 長期休暇の構内停電&ネットワーク機器停止	
省エネルギー・省資源の行動の実践（現場）	・ 生産量に応じたコンプレッサーの使用 ・ エアー漏れ点検管理による電力低減 ・ 工具、金型等の再利用及び寿命向上 ・ 製品、金型の不良率低減&設計変更による資材の節約 etc	・ 年間計画及び年間目標を立案、省エネ会議にてフォローを実施。
省エネルギー・省資源の行動の実践（その他）	・ 紙の両面コピー、裏紙利用によるコピー用紙削減 ・ 電子データでの保存推奨	

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--